

三重苦に直面している、台湾・香港への果物輸出—梨、柿、みかんを中心に—

日本農業サポート研究所 福田浩一

「原発事故後の半年、韓国、台湾の売り込みが激しかった」と鹿児島県香港事務所 川村和彦所長は振り返る。東京電力福島第1原子力発電所事故の影響も含めて、両国を2011年11月下旬に調査したので、その状況を報告する。

1. 韓国産梨、自国産柿の人気が高い台湾

台湾の台北市の青果店で、贈答用のパッケージの中に、日本産のリンゴとともに韓国産の梨が入って売られているのを目撃した。韓国産の梨が高級品として市民権を得ているようだ。貿易統計（行政院農業委員会公表、愛知大学国際中国学研究センターICCS 研究員佐藤敦信氏作成）によると、韓国からの梨の輸入は、2005年～2010年まで9千トン前後と変わらないが、日本産梨は、2004年の約1千百トンをピークに、2010年はその約5分の1の236トンまで落ち込んでいる。このことを如実に表す青果店での光景だった。



同じパッケージ中の日本産リンゴと韓国産梨

一方、柿については、「当方では日本産は人気があるが、台湾産も良くなっている」（微風広場 西川正史シニアマネージャー）、「柿は、台湾産の富有柿に良いものが多く、台湾で消費されるだけでなく、日本からは輸入していない」（ウオーカー・グロウーライト・インターナショナル株式会社 李昭志マネージャー）と指摘されたとおり、台湾産の富有柿がスーパーや八百屋で日本品種の柿と明示されて売られていた。



見事な台湾産の富有柿

台湾は農産物の輸入国でもあり、生産国でもある。「梨消費の半分が台湾産。台湾産の巨峰も品質が良く、日本に輸出されている」（微風広場 西川正史シニアマネージャー）。台湾産果物は、価格が日本産の半分以下で以前に比べ品質も良くなり、台湾の消費者に受け入れられている。また、梨に代表されるように、台湾産果物の品質向上と韓国産果物の売り込みに、日本産が減少しているものも見られる。

このような逆風のなかで、「温州みかんは、富裕層を対象に売れている。特に温州みかんは、ハウスみかんの人気が高い」（李昭志マネージャー）。実際、日系デパートの食品売り場では、一袋25個の温州みかんを現地のお客が次々と購入している現場に直面した。

原発事故の影響については、「5～6月頃は、日本からの農産物の輸入量は減少したが、ここ1～2カ月は回復傾向にあり、現在は、むしろ円高による高価格の方が影響が大きいようである」（財団法人交流協会経済部 今西直人主任）。

2. 韓国産の梨・柿が攻勢を強める香港

『安全安心で、おいしい』が日本農産物の売りだったが、その前提が崩れた(栃木県香港事務所 渡邊邦彦所長)、と香港では原発事故の影響は大きかったようだ。鹿児島県香港事務所 川村和彦所長も、「一般的に香港人は忘れっぽい気質と言われるが、輸入業者などの人たちはシビア」と指摘する。ただし、「香港の市場は、東京の市場と同じように、競争が厳しいと考えなくてはいけない」(日本貿易振興機構(ジェトロ)柳井慶子市場開拓部部長)と強調されているように、原発事故がなくても、もともと、日本産農産物の人気の持続は難しいと言われていたという。

「韓国産果物は品質も良くなり、香港でも、ここ2~3年増えている」(ジェトロ柳井部長)。実際に筆者は韓国産の梨と柿を試食してみた。両方とも、甘味が若干足りないように感じたが、ジューシーで美味しく、日本産のもの1/3以下の価格と思えば、特に問題はないように感じられた。「日本からの輸出は同じ県でも産地ごと別々に売り込みに来ることもある」(栃木県香港事務所 渡邊邦彦所長)が、「韓国産は産地を特定せず、韓国産として輸出してくる」(ジェトロ柳井部長)そうで、オール・コリアとして取り組んでいることが伺える。

このような中で、日本産の温州みかんは、高級スーパーで目玉商品として扱われていた(右下写真参照)。みかんの日本からの輸入は2010年が2009年に比べ数量、金額ともに2倍近く伸びている(出所:香港統計局、ジェトロ作成)ことを裏付ける光景だった。

3. 課題と展望

両国とも、原発事故によって、日本産果物の安全安心ブランドに傷がついたうえ、台湾産や韓国産の果物の品質向上、円高による日本産果物の高価格によって、厳しい競争にさらされている。このような三重苦によって、日本産果物は、明るい展望が開けにくくなっていると言っても過言ではない。

こうした状況下でも、日本産の温州みかんは、両国の高級スーパーで目玉商品として扱われ、健闘していた。温州みかんの健闘は、両国で類似の商品、つまり競合商品が少ないことが大きな理由であると考えられる。また、袋当たりの数で調整することによって、現地価格で300円~800円程度の小袋で販売し、消費者に購入しやすくしている工夫も見逃せない。

競争が激化する両国において今後の輸出戦略として、競合する果物や他の国にはない品種の果物に絞り、消費者が購入しやすい価格帯で販売するなど、国を挙げた取り組みが求められる。

(※桃山学院大学経済学部大島一二教授、愛知大学国際中国学研究センター佐藤敦信研究員には、現地視察先のアレンジ、調査の助言等ご協力をいただいた。この場で御礼申し上げたい)



バスの韓国産柿の広告(香港にて)



香港人は果物好き。街には果物屋が多い



日本産の温州みかんを買う香港の消費者